

家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。」

社会が早いスピードで変化し、多様化していく時代においては、氾濫する多量な情報の中から、物事を本質的に理解するために役に立つ知識や技能を選び出し、それを確実に身につけさせることが必要なことは言うまでもありません。そして、何かを教わるという受け身の学習態度でなく、自ら課題を見つけ、主体的に探求する姿勢を持たなければなりません。学習指導要領の理念は、時代の必要性を反映したものだと言うことができますし、このことは、指導要領に言われるまでもなく、教育にかかわる多くの人たちが言い続けてきたことでもあります。

問題は、具体的な教育の場でそれをどのように実現できるかということです。

学習指導要領が変わるので、それについての研修会や講演会が盛んに開かれています。そんな所で出会う高校関係者の中に、「指導要領が変わることで大学の入試はどう変わるか、それに有利になる対策はどうすればよいか」ということだけが第一の関心で、肝心の、どんな力を育てるかということに意識がいかないような人がいるのは残念です。本当に基礎的・基本的な力を育てることができれば、どんな試験にも対応できるはずです。

◆「創造的な学習の時間」

10年ほど前の学習指導要領から登場した「総合的な学習の時間」は、教科の枠にとらわれない学習や探求的な学習のための時間として期待されました。啓明学園などの私立学校では、ずっと以前からそのような学習の効果を認め、時間数をやりくりして実施してきました。学校によって呼び名はいろいろですが、啓明ではたまたま「総合」と呼んでいます。「総合」の時間に取り上げるテーマは精選・整備され、毎年楽しい展開ができ、大きな成果を上げているので、このような時間が広く取り入れられるのはよいことだと思います。しかし、実際にはなかなか定着するのが難しく、今回の指導要領では時間数が減らされてしまいました。今まで、細かく決められた内容を逸脱しないように教えることを求められてきた先生たちが、いきなり創意工夫を生かした教育活動をしなさいと言われて戸惑ったという事情もあるようです。

啓明学園 初等学校・中学校・高等学校
国際教育センター
〒196-0002 東京都昭島市拝島町 5-11-15
電話：042-541-1003
ホームページ：www.keimei.ac.jp
Eメール：kokusai_info@keimei.ac.jp



学校が戸惑っていても、お父さんやお母さんたちがその意味をふまえて、子どもにいろいろな学習をさせることはできると思うので、その目標を記しておきます。

「横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようになる。」

その内容については、指導要領では、「各学校で定める」として、学校で自由に決められるようにしています。画一的であると批判される日本の教育の弱点を補うことができる時間でもあるので、少しずつ実践が積み重なって、効果的な活動ができるようになっていくことを期待したいと思います。豊かな経験のある私立学校がお手伝いできることも少なくないにちがいないと思います。

「学力低下」「体力低下」「意欲低下」などの言葉で表されるように、日本の子どもたちの現状は、心配なことがいっぱいです。親、教師、地域の人、行政にたずさわる人、研究をする人、ビジネス界の人など、いろいろな立場の人たちが、それぞれの視点から事実を見つめ、正しい情報に基づいて活発に議論をしていく必要があります。海外に住む方々が、国内では考えつかないような新鮮な視点を持って参加して下さることも、たいへん意味のあることだと思います。



幼稚園から高校までの新しい学習指導要領が出揃って、これからのほぼ10年間の日本の教育の方向が示されました。

現行の指導要領は、「ゆとり教育」として見直されましたが、その中心目標の「生きる力」はサバイブしました。その力は、佐々先生がここで述べるように、「時代の必要性を反映したもの」です。

この「生きる力」は、表現こそ異なるものの、アメリカ、いや世界の主要国の教育の理念・目標にもなっています。

子ども達の中にその力をはくむために、「総合学習」の時間を「創造的な学習」に発展させる必要を訴える、佐々先生の言葉に心から賛成します。そのためには、日本も、アメリカも多くの課題を抱えています。